

平成28年度事務事業評価シート(27年度実績)

◎基本情報

事務事業名	「なると環境スクール」推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市教育振興計画 鳴門市環境基本計画	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業 期間	開始	平成 21 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なると			終期
(小項目)		学校教育			
施策	3	義務教育の充実			
基本事業	8	環境教育の充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内の公立幼稚園・小学校・中学校						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	子どもたちの環境学習・環境保全活動を促進・支援するため、優良校(園)の表彰や電気量削減額の一部を学校(園)に還元する。						
事業計画	27年度年度に何を計画していたか	全ての幼稚園・小学校・中学校が環境教育の推進を教育計画に位置づけ、なると環境スクール認定校(園)として、環境教育、環境保全活動を推進・支援するため、光熱水費還元システムを実施し、優良実践校(園)を表彰する。 還元額については、平成26年度の運営委員会において新たに決定した基準年を用いて、幼小・中学校の還元額算出を行う。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	単位
		電気量削減率(基準年比)	-2.0	-2.0	-	-	-	%

◎実施結果(DO)

事業実施内容	27年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	全ての幼稚園・小学校・中学校が環境教育の推進を教育計画に位置づけ、なると環境スクール認定校(園)として、環境教育、環境保全活動を推進・支援するため、光熱水費還元システムを実施し、優良実践校(園)を表彰した。 また、現行の光熱水費還元システムを利用した消耗品費の還元については、運営委員会で見直しを図り、平成28年度より環境教育等(光熱水費の削減も含む)に優秀な取組が見られた幼稚園や学校を優良校(園)として表彰し、予算の範囲内(50千円上限)で消耗品費を配当することとした。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他					
	指標名	26年度実績	27年度実績	28年度目標	29年度目標	30年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 電気量削減額	450	-76	0	0	0	千円
	2 なると環境スクール認定校(園)	34	32	32	32	32	校
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	電気量削減率(基準年比)	-1.7	0.3	-	-	-	%
	目標達成率(実績/目標)		-15.0	-	-	-	%
今年度の進捗状況	未達成		事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり		

(千円)

財源内訳	平成27年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
			当初予算額	0	0	0	0	0	0
			全体予算額	0	0	0	0	546	546
			決算額	0	0	0	0	546	546
			繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(6,859千円/人)	臨時職員(2,071千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.1	0.0	686		1,232			

【事務事業名：「なると環境スクール」推進事業】  
(千円)

年度	26年度決算	27年度決算	28年度	29年度	30年度	
事業費推移	事業費	848	546	250	250	250
	うち一般財源	848	546	250	250	250
	人件費	688	686	686	686	686
	総事業費	1,536	1,232	936	936	936

## ◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	環境に対する意識は年々高まってきているが、電気量削減に関しては、学校の努力だけでは難しい状況にある。
	効率性	B:概ね効率的だった	削減額の1/2を消耗品費として還元しているため、事業費は効率的に執行している。
②成果に対する評価	指標名	電気量削減率(基準年比)	電気量の削減に関して、学校・幼稚園の努力だけでは、今以上の成果をあげるのには難しい状況まできている。
	目標	-2.0 %	
	実績	0.3 %	
	評価	D:目標を達成できなかった	
③総合的な評価		<b>B</b>	光熱水費還元システムに関して、電気設備環境や使用環境等による格差があるため還元方法について見直しを図った。

## ◎今後の方向性(ACTION)

課題	本事業については、継続することによって成果が現れる事業であり、今後も教職員と子どもたちが一体となって、環境学習・環境保全に対する取り組みを持続していくため、継続的な支援が必要である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	<b>2</b>
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	平成28年度	環境教育等(光熱水費の削減も含む)に優秀な取組が見られた幼稚園や学校を優良校(園)として表彰し、予算の範囲内(50千円上限)で消耗品費を配当する。 優良校(園)については、中学校1校・小学校2校・幼稚園2園を毎年選出する予定である。			
	平成29年度	環境教育等(光熱水費の削減も含む)に優秀な取組が見られた幼稚園や学校を優良校(園)として表彰し、予算の範囲内(50千円上限)で消耗品費を配当する。 優良校(園)については、中学校1校・小学校2校・幼稚園2園を毎年選出する予定である。			